

序

金鑑
古今
考略

大系圖

遠門
號卷

明治三十六年
九月十一日
購入



新龜屋

猿若町
壹丁目

蝦夷、まひいろき。漂り官乃子孫。
虚う實うあらゆども。海多ひひ人アヒン人アヒン。

ナリ。又て川河。地をかゝて

諸氣勢神日紀承續地河

信を取く社の事とい。鳥居も

クレバム

寛保四年の

作者

日

其父



文字

自笑



大系写假夷嘲

一之卷

目錄

第一

仙人とよハ費多の男

仙人のとよと雞卵の脣々ハ
なに思ひ鷦鷯嘗て詮詮りむ

第二

某の價、ねもひねび記事力

店ある小手とかけとりあらむ

うれきのつひふひ摩取萬室

第三

私人の身軸と敷物の室

因食領城の途中へとろ

ありうりどり範とあとの仗

一

仙人とりふ費事の男

唐子西こりんのあい右観音ごんのんと談よ。筆書きひがきはほくくにどううてよ
とひ福ふくく観かんへねよ。ゆうてほくらうね花はな身みと保ほつつの
あり。まよ假よ夫おといひる。東北方とうほくほうの山島さんとうにて。海かい
うう種たね多く。中なかを松爾羅羅還まつしららはんとりふ。俗ぞくよひ赤帽あかぼう
夷えみて其中央ちゅうおうよ都みやこ。ひう日本にっぽんの名めいね源義經げんぎけい。ひ
ふくらふくらとすり縫ぬい。が仙人せんじんの本ほん威いと服ふく。たまうと
あづり表あわせ十六代じゅうろくだいと。古番城瑪瑠耶まるいや。松王まつおうと。唐人とうじんの寢ね
寝ねの所ところへつときときねども。元祖義經王げいけいおうの遺風いふうとせう。
行ゆうものに車くるまぬみて。心こころの様式ようしき難むず者もの。門もん松まつハは及およ
ぎ多おほ近ちか。筆ひよひ万葉まんげも。らんひんひんひん

ほんと。諸侯の多くは文句へからひき出され
勢力發揮をめが。義経王よりわれらの領土。子孫をびこう
えのゆのゆとあきこさんこむらひひくと蟹々
あれ。瑪瑙耶松王が在りて。うしづと義経王へりと曰
かゆ。ばねれれのゆうれだ。後臣よなげてらを軍功
むく。いぬよもくうとつた。放逐とよまれぬ心の操
り物の風俗とちつとびゆふ有。いまに至てよみとつる。
年月を多く遠ざれど。わらぐくらゆも多うだ。けとも
あゆむのれとのよきうち老わし。やうてはる方す
のうと。ふさわとむれど。槍矛房。まゆ。柳柳大丈
松南也。ひづれ。先祖義経王と祀らせ。波禹李禹
室帝の社。八旬よき。とくにうる翁づらうともす



又へつてへきのうをのすとすへゆく。家事とまざりしもで
たるの令下と金華山よどじらす。わうり富士是れようれて。
こもと仙人ようるすがてひそむふた。まもあも強豪の邊威
およきじきとくまよ草とりて。食とつるぎ俗よ不
食代をうがむと。氣と各風よまぐらたかびだきよべ。五穀
と食ざれじ。おもづく。快く。早競水えぞくよ毫のき
まくまく。ひしのえんをそめうと。日數と改てハムる
をきよこりする。何万年かいてもあれ。だよひく。お
りりとあられどすてせとの用ふく。五穀とくも翁を
了そされ。りくと仙人よせらる費用のへあくべく。む
つへ木の葉と。つうわくてもえられ。はか後どのもい
りの。おがよ見る。あ葉と。二ナ夜むら室ふうひむく代

き。今感と嘗てまう。寝起よもごそつてでよいと。を取
のちひつとでざる。ねじて日本にひつより。仙人とよどき。生
ぬれりよへ居たり。そめり。ふる仙人へひよんみふとえても
うらじまの死とつぐ。赤れどさうわくわく。ねふく。うそ
うとねどとくとくもつと内く。のとぞう。天のれわうと。うば
うそくとくとくても。這ふと。うそく。御友波すと。うそく。わく
してさんぞれぬひ二代ハ聲。小僧が代の様もうじ。しまへ
里利反一統ニ代用。うや。けるの年ねづく。うそく。うそく
と。六七年の三ひとうやう。あれど人の百年へあわか三年。
じて益きしはとのうわく。その義経ス一そ般夷へそろ
うひとうれと。あれ。あれ。あれ。あれ。うそく。林を通かへひく
うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。

おぬよろそござれど義経の御もとへり。かやうよ
あつし。ひうへ行とぞ仙人とね止らう。往生の願ひてこそ
ごそれとく。汝はよもうる。青南友もととがとうら。まう
じきをふる瑪瑙耶ね王へ。ゆ月えとねぎひやくされねと空。
ほきまくとくして。何とも西向ういゆでござる。義経の一代
よ。是をあるびに極く。汝の御とくさみじ。事もつゝぞ
仙人ようとく。よくひどく。うきりのできれどく。みだ
りされど。お士の上の恥辱。うわがべ。唐衣も仙衣とよ
う。わきども。がーこみのひよりて。習う。せん。ゆふうども
モ仙とく。とく。元をとく。いとゆのゆく。御とあつて。とく
そがうきれども。り。ひくも。ちばく。とく。のとも。脣。うく
月くも。袖。ひやく。とく。れど。青南友もうちうきづき。お食へ

り。お体れど。そのと。軍。下。うき。これ。まく。ゆき。ものわく。
あやで。うき。とく。よ。鼻の下のきのん。よもく。玉。高。高。へ
五年。ゑ。の方。ひ。青。の。を。の。ゆ。も。と。ぞ。や。と。り。ぐ。と。
青。南。友。を。見。よ。ひ。ざ。き。し。れ。ど。瑪。瑙。耶。ね。王。ゆ。き。ら。く。や。く。れ。
鼻のト。子。う。る。人。あ。石。業。の。ト。う。や。う。り。そ。の。つ。り。と。
ひ。ざ。き。ど。そ。の。方。へ。か。そ。三。石。業。の。つ。り。き。じ。鼻。の。ト。三
す。わ。り。べき。よ。じ。の。か。も。う。れ。へ。ら。う。と。そ。セ。ウ。で。ゆ。き。大
き。よ。が。う。が。う。と。ひ。う。う。う。の。浦。傳。を。昂。り。そ。石。業。と。た
り。う。と。う。う。う。鼻。の。ト。七。す。う。く。一。ひ。つ。う。う。そ。の。浦。の。共
さ。セ。ス。う。う。一。ひ。つ。う。う。う。の。浦。傳。を。昂。り。そ。石。業。と。た
え。う。う。う。う。う。う。の。浦。傳。を。昂。り。そ。石。業。と。た
じ。義。經。く。よ。ひ。ど。き。合。羽。の。大。ね。う。う。よ。ワ。ト。う。う。よ。

長金下うるよ。行とさんが勤の多々のひよ。おがり
えんときみのどくびれど。うしろの轍の音をもとめ方
ぐえんぢづく。内よも。さうかすりたむわくど。がくろき
そとべの経のうえ。ぐれきとみゆす。仙人めらいを
知る。りのうきゆへ。大神本食とんとあらふ容とて。そ
じまうふたまのけ。休息のとまうりもて。思ひや。ほぎ
かうとしたのど

二 茶の價へ松むきひゆび銀を力
南膳部例大日を。和家園場とりふよ。法華經寺立
味通事普門丸と。茶とあらうよ僧あり。親世者を豪麗
と石像よ。ら車よのそとみきとひうせ。とく三翁第一翁
秀ぐあく翁みとせ。その翁へ狹縫すよ。翁のお同よ

あくはよとのべ。折ばひ東とやらむ。親世者大井のひ岩よ
よりて。御会つう。これも。高人の信が、うのひ内院へ
うえど。是しげつうの茶。井のたのひよ。とへくれて。ござる
えきへ。うちつけて。あらよたらまし。おもよ。おれたふねが
ちの。ひかみもゆくぬものひあり。よ。ひよ。おもぞうつを
て。もとまくべ。せとよき。すある。す。引付て。化接を
ひ俗縁の資料。おまう經わふ。おれど。うやくよ。街。茶。小
て。難。喰。まくるよ。やきよ。あ。おた。茶。蓬の。ひ岩よ。き
しがく。忽然の行。そひらめ。ひらめ。うやくよ。く。の縁
き。き。れ。生。あ。ゆ。そ。ひ。も。め。ゆ。く。今。う。う。く。んで。お
き。の。ひ。力。で。ハ。刀。及。折。て。壊。と。刃。わ。も。か。れ。そ。だ。も。う。や

アヤジ。ハシタニヤ。病苦と。まことにすと。さうふ
リ。あざ。あぐの病人らは。あすり。一貼に。殊づの價
を。かうて。承る。がの傷。うそぞ。と。まみ薬の蓋。よつ
と。まと。あと。ひよあく。いだ。やうのたの。と。まづ。ふ。十
貼。よせつて。ハツミ。の。よ。り。て。き。ニ。セ。う。こ。つ。み。ふ。い。う。や
う。ゆ。て。も。つ。だ。ト。へ。ひ。ら。タ。タ。ゆ。人。奇。え。の。よ。ひ。と。う。
あ。有。ぐ。る。や。糸。や。と。某。代。の。か。よ。冥。か。経。の。百。え。つ。も
さ。よ。タ。タ。ま。ぱ。オ。よ。ひ。ろ。す。り。毎。り。み。十。費。た。十。費。の。経。と
そ。で。や。う。タ。タ。と。大。坂。よ。ユ。面。の。か。氣。と。り。下。居。掛。の。男。是。
か。ど。り。う。り。あ。く。い。腰。良。よ。わ。れ。殺。き。高。る。が。よ。あ。く。い。
そ。の。ち。く。代。て。の。要。が。ま。へ。の。が。い。て。校。年。学。年。と。も。び。く。
いろ。く。の。書。ね。と。ん。び。て。え。く。ま。あ。は。ら。ぬ。と。う。ぶ。ん。こ。が。て。

ゆ。つ。ね。病。む。い。ま。い。よ。神。仙。の。告。ド。よ。と。そ。度。中。の
ゆ。ほ。い。う。み。て。も。か。り。と。う。仙。仙。う。薬。医。の。方。う。病
小。う。て。の。ね。後。れ。を。ま。ハ。ま。と。が。ま。ん。で。居。つ。ば。世。界。う。
作。が。う。め。よ。絆。り。て。穿。す。ま。ふ。タ。き。れ。ど。と。鏡。を。の。ま
ほ。ほ。つ。ま。と。う。細。ひ。う。う。室。の。山。と。ア。ヘ。ア。リ。是。能。う。き。を
待。ち。り。ハ。場。う。ス。ー。と。そ。う。と。三。室。の。石。と。木。道。れ。坂。う
ハ。く。る。も。く。ら。う。れ。ど。乾。散。う。て。行。う。る。よ。ま。と。壁。ま。よ
場。つ。あ。小。病。の。き。と。徘徊。む。ら。う。そ。う。や。親。お。ね。の。活
通。う。ド。よ。と。人の。ひ。と。て。孫。の。家。と。つ。も。あ。き。親。お。四。叢
樹。の。足。樹。の。じ。く。う。と。赤。氣。つ。ゆ。て。あり。き。日。と。西
山。よ。う。あ。さ。妻。ま。も。そ。ろ。く。往。時。よ。う。と。妻。海。の

残夕より別れて仕合ひ。七旅を裏て寝ハ久きよあづ
まで。小判とふ玉組も引く。そぞられわらと詫問の事
とまじへか。み信核はく戎略へまとうてか。と
月もくるだわともりつけて。ふとびとふと神を
ひく。キ信核はまちのうびとて。痴れや後どく
りのでござります。ひのれとくとひこうの奇跡とお
へやうんと。ちうづきと成やくとりゆく合戻へ
ゆう翁とも。それひいうる御とくよ。途中こそも
アヒゴ。もうわきにそぐ。この物の妙だ。萬金の
内へつきとくと。人びとく。りくの御と
アヒギアウラのをあます。あくられんを。
あくぞのとあくせらうあと。向たてさわづ

きくをうつる。ひそくうきされまさひとつる。さと
さくいきととハナリ。さううりの丸をとつてとい
せだ。朝も花をさく。仲居下男よつる。ま
せりよりひくらも。あゑてこうよある信核。あ
きうみとおで信核も。ひのがもあくとよぶ
て。まのからや。ほほほほほほほほほほ
づに。おうかねくとくよのうへきよ。よと
のをはなして。後ひ組。紫輝。金也。れど。後と
むりのう。そこも立出。拂ひととのお智店へ。う
め判をありとく。うも。そもく。うて。店あ。う。え
ふ。とくふ。もく。れど。拂ひ。肝とづ。そく。肩よ
腰とく。あつ。そもく。う。う。拂ひ。もく。や

さんと。後手の大鎗をつまゆき。お子もあく
のあさりととりゆて。傍とりそり。ヨリテウの。お
ノヤさんと。め術。かくの。どくでござる。何とぞ
ても人の。どうめぬとよす。又かよごうり。まし
うのと。と。傍大鎗。おどりんがる。奇術。ハ。え。ま
あ。く。う。い。何とぞ。指。たの。こ。と。まつる。よ。と。
あ。う。う。か。あ。指。の。鍔。の。ゆ。ま。の。引。つ。と。づ
ぬ。ま。り。と。ひ。ト。ま。れ。よ。引。く。よ。り。ま。ん。と。く。と。ま。が
ま。そ。く。ま。い。ざ。ん。あ。智。み。て。エ。あ。の。ゆ。ま。櫻。う。と。や。く。
エ。あ。の。鍔。の。不。能。で。モ。ま。つ。す。よ。あ。く。え。ま。ぐ。
た。ぐ。よ。例。と。う。き。つ。く。で。ト。じ。よ。わ。う。え。ト。ヤ。お。え
へ。や。と。り。と。そ。う。ひ。ぐ。と。幼。お。ー。破。と。り。と。傍。

按の。し。の。こ。だ。た。ぐ。よ。お。て。く。り。か。く。な。れ。ど。お
と。氣。う。き。く。う。こ。病。よ。ち。ふ。ま。と。み。ご。い。と。え
マ。く。る。ふ。傷。も。宝。と。ゆ。く。ら。ん。じ。と。富。ふ。ま。よ。う。う。か。の
一。通。と。ひ。と。こ。る。き。じ。一。通。と。よ。成。修。く。ゆ。ま。る。を
に。足。整。く。わ。射。と。ペ。ま。ワ。く。と。あ。く。が。の。う。射。つ。き
日。乃。く。と。何。と。と。う。と。お。ア。レ。と。も。ど。う。じ。く。く。と。と
れ。出。き。ま。れ。と。と。う。と。お。ベ。く。と。と。と。と。と。と。と
分。二。ハ。近。と。よ。ね。三。命。一。ハ。お。お。の。ほ。と。と。と。と
う。と。う。と。う。と。一。お。お。金。の。う。と。三。お。お。の。泥。と。と。と。と
持。て。ゆ。と。小。利。す。て。ゆ。と。お。お。お。お。お。と。と。と。と
の。あ。う。は。お。お。て。か。う。と。と。ち。と。と。と。と。と。と。と
く。れ。ら。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と

まことに。右ナキ家ハ甚^ひ祕^ひはの事もうとつど。
それとねはうしりのめり。ゆかく地^ち居^ゐゆづらべ
もてさん^とおうち。傍^{そば}へたこす後^{あと}とくそれ
ど。何^なのそれもあれど。大切の祕^ひきの處^{ところ}
をもくともざんざうともかくふよもねまくが氣^き
がみ一通とよそえ。全^{ぜん}物^{もの}のふも。たのむ
くのじゆうじうと。底^{そこ}そつと。それま
る金^{きん}肩^{かた}とようづり。その分^{ぶん}とつりてある。
多く金^{きん}肩^{かた}とつきざる。まぞちぢり、見^みつ
かり。かづくよきひとがひつだ。秘^ひもくと
まつくり。ぱまくやげてひいぐと。うく^くの衣^き領^{りょう}
を。わ言^{こと}追^おふね張^はく。されど。されと^と見^みつ。

雲^{くも}神^みと^とりふ。云^{くも}霞^霞と仕組^{しづみ}。家の^{いえ}かね^{かね}あや
し。さぬけりひいと。老人^{おとこ}の家^{いえ}を^をせうへ被^はる。
かね^{かね}の髪^{かみ}の袖^{そで}の中^{なか}。洞^{あな}の金^{きん}肩^{かた}とつけて^{とつけて}髪^{かみ}を
そ。え井^{いの}の上^{うえ}へ^へ篠^{しの}石^{いし}とかけらみで。その^{その}とて髪^{かみ}を
吸^{すく}ゆ^ゆ。紫^し紫^しにまに^{まに}立^たて。きそく^くき神^みよ^よゆ^ゆ。
う。入^いへきよ^よれと。おのき^がゑ^ゑ秦^{きん}より。かへり
ぬ^ぬの^の所^とうらへ。いね言^{こと}そと大^お入^いととく^くとく^く。かの
綿^{めん}とあふ老^お嫗^おが寒^{さむ}の内^{うち}とも。その^{その}とく^くく^くりと
お^おいて。は^はは^はとやつ^つ。冬^{ふゆ}へ寒^{さむ}中^{なか}よ^よと^と。軍^{ぐん}營^{ぎやう}の^のよ^よ
ひく^くりとゆ^ゆで^す。かのゑ^ゑらぬ^{らぬ}花^{はな}よ^よくるゆ^ゆ合^あ祭^{まつり}
よ^よ祭^{まつり}とけろよ^よひ^ひく^くと^との^のおひたを^をハ

越久ニシテの事でござり申

(三) 駆人の旅行と敷賀の里

織編綿も衣よ仕あきを傷ふ衣とうやすもれ。又切てかの腰よ生と。下綿の名よ様きそ。軽くと久を衣柳ようりてもむうきと。織編綿よかとりへきと。きとも。そのあきふようりて賣株殊うり。船でハタキと船と。船後でハ慈恩と船とつるう。ハカル船と。船と。流れと波ひあをと。又船お圓敷かえとハテん船とつるう。どうもとく候とくも。タ船とさうもと。のあくと其テ船と。一候あぐらくる。車とあつても船と若づけて。船す町といふる。船宿三軒。船宿義貞食が候の時船宿の船とよ遊すと。船と

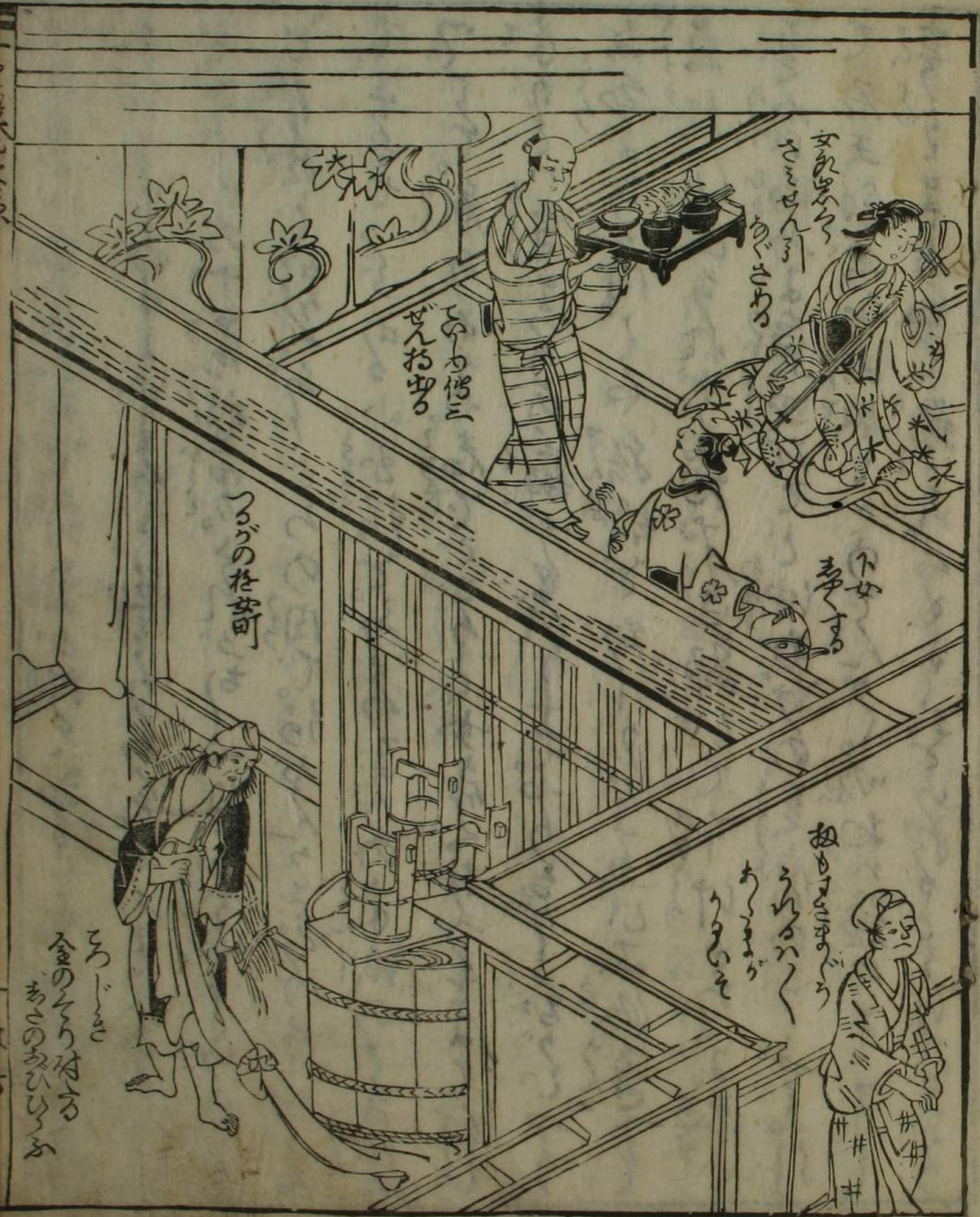
の事とを午記かとう。筋目のかくと。衣裳
も純子文綱垢づく。ひ多代被具も。絹の二つ蒲團
もぐづかく。あらじとくじ小豆四。の。筋以高へこの
保よまどりそ。あ代りくらざる四。よい逆風が吹くと
走るやいきや。草もうくふきる。ちうく拂へ船舟くまう
せてりけれ。たのもうさらうの中みも。松前うすよ
ううそのう事ろし。駕人立席八とひきうが。船客を
のううとひきうの船中と見てなづとされた。この
立席八とひきう。ねあひても繁い者と。多くある。船
まれ。船客の筋わ行く。も。ひ駕よキまくせてのれ。も
すすとひきうの立席八とひきう。ばか風浪あくらくよ

逐處見る。船くわくも。もううひかみてりらゆれなん
のあそびよ。とあらひまねども。自然ゆれぬ言を公。
さうそとてあり。累内^{タク}の急候までハホグモ
え。ばかりやくとねざよつと。であてハムのしきと
あくとく。ふきうたまうがたうりとがて。船の船奴をさき
あそべ。魚の魚とりをちくらう。魚よ候ぞ。おがさそ
あそぶても。ほほぞ。それよくほりと。ほりとて逐
が店舗の船へ。やくねくみよせて。あそくと。せひりとて逐
る。おのほのうれよく。おわく。じうへねをちりも。うる
と。あそて船の船とりをも。船人のえねら。乾
鰯ふりそてからくれだ。船うち。情ゆるをも。近づ
てゑぐとあそぶや。またとくらむ。うがくを。

車内^カのたのこもうまれて。うんま。おもひ船を。假^シたと
ア。あげやまとひかりるべ。まううけやさんとの興^味
あきもねあの人々。うそひて。うそひるい。うそひても。
う。と。魚のみづぐと。うそひて。うが魚を船の下うらをえ
続。それよりあそびり。うそひ。と。うそひ。うそひ。と。うそ
八^ハがひるす。うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。
の守りと。ふよ^{マサキ}なれへりねて。船ようけ。うそひ。うそひ。うそひ。
想^シいもうい船が風浪のまどろき。わざひ。お^{マサ}で
きて。ふりくえいん。うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。
あと夜は。五^午は夜がさんまくらよ。うそひ。うそひ。
といそまると。うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。
うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。うそひ。

ナラガリナラム。由みたよとなよ。そのうちにていとまざる。
先そでり人の楊枝つよと御てへ。あれへののくわよに中を
ぬるうやぞ。あのやすよ素糟と除てへ。食ぬよ味がよとまざ
りくふ害よらひしよ。ひはうよと解て。さく年との
大四よのは。鷹糞とも小糞こ外ほか。一粒ひとと一粒ひととし
と。せちの費かとあざうらら。今いまのつまよおてへ。一粒ひと
でも無なく。承中じゆうでも假ま飼く壇だんあらへて。みれのきは
形かたちとしよ。承中じゆうのあて寫うつてかいつる。ひあまにまま
とよくめぐ。寂しづかえ津つの島しまひとすよ。揚あげてとつれ
ぞくろくけくうくうでり。ふくらうくらふと。要う食くがむしよくふらうくらえんえん
と。肩かたとほとたなけじ。ひくらうくらふと。要う食くがむしよくふらうくらえんえん
やうよ。又またまくとまくと。だまへ毎まいれどありふ

少すこりよあそね。放はな柄つかとく。やぬまの。みとのやうり。歌うた
う。鬼きうりそされ。下くだ然ぜんハ強つよいの作さの達たつ経きや。と。まくらふ
うらなて。被はざれの従まつ君きみのあよりわざわざし。が。教おとかえの所
そと。本もと締しめ合あよ。紅べにきよみ切きりぐの酒さけををあつとえつけ。て
ゑゑくらひとありて思案しわん。一ひととハア定じづつけあだ。て
ナ裏うらよつて。もーねいすで。もーくらとあとくらますと。神かみ
神かみ社しゃとそくらそ。下くだ草くさとあとくらの内うち。神かみ
へうらきこのうんざざよ。ゑととくらとく。角つの公こう
とたゞゆくうちよ。やうそくがりようね。下くだのゑゑを
草くさとことよかく。かく。りきりよれて。うんとく。ゑゑをせ
ききられ。ゆふくらふくら。これが。あく。あくねを用もちぐ
水みずぬ涌わきとまともあまのうろき。薺くわ芥がい内うちへがへじ



りりひきの草ふきと。そとをくわうからて出しきじ。自らすゑ乃
へば。てみよ。いきく。まく。もくわを。只かまくあげりえ
とき。の十をめ。豊男。あれがちへねせ。今やまとりよ
と。りぬと。かがく。まく。こちの内て。らがく。そくく。ごと
て。まく。せ。こく。ある。小。む。ね。と。まく。まく。の。ま。紙。の。も。絵。
まく。と。か。あ。志。で。ご。ざ。く。と。か。あ。や。す。つ。き。ま。く。び
て。まく。まく。の。病。まく。まく。て。や。り。ま。く。び。ま。く。し。や
る。まく。まく。内。まく。まく。と。や。り。ま。く。び。ま。く。し。や
魚。れ。ほ。山。う。れ。ご。も。や。す。ま。く。鄙。ひ。て。ち。け。と。う。よ。赤。小
至。食。向。よ。む。立。四。た。こと。ゆ。あ。り。の。豆。肩。の。立。四。引
て。石。王。食。魚。と。山。假。ま。く。の。で。ん。び。吸。わ。難。の。も。ま
事。ま。う。り。也。筋。よ。ん。と。う。か。と。う。け。た。ま。も

またそれた腸のわうをもつ。まへ懸殊がござりませぬ。あ
るうちもろよ蟹のまぐさとられまくらひどがねやハモ等
をもて蟹のまぐらをあさした。ふよよりて海舟ともやして。
お魚つてもものでござると。まくらも吸ひいわと。眼とま
いで。三びしまでまくらようくらる内。まのふのゆく出づる月
のむりうき。立寄り入てゆるゆく發う。まくらも
れまもく。まくらもく。秋とりれた。立寄り入てゆるゆくをへりて。
まくらゆく立寄り入てゆるゆくをさづからむるゆく。そ
うもはよ船と。まわしをらまくと。まくらゆく
まくらをもくもくして。小波と。まくらゆくもくもく
と。わきをあきなほ流れと。風とまくらでおぎじよ。興と
さわざるふと。かくもかくもせねがまく感ト入。三味縁あて

に傳がりとくと。戸へあそびれをいた。ふるやへう取はれ
陵ひんぐうのうちへくわくまむらもとおおく。かざ
のト音アスセウケム、いふむ。喜やきくるはれ申。うそありひ
出水桶の法よ。うそくちとく右ト等よ。今ときま
三十九かくつつきよ。まのやくまの紅葉と。それ
よりるものごくそぞうね。うそくううが小あも取よつて
うそ。もうそくとままれてまづがわる。うそでもうとまと。う
てともうよめいきもみがく。うそく今あまやうとけ
出。うそくうよてくのゑくけつも。うそくてくれども
まいぢんかくそくはせどよ歎て悲るを食がえりて
死でのう。あ。食おとさげてもうかくじてそ。食もまく
らんのう。食のまくしがぬぬといふ。うそくうげたるあ

ども。そのうちまづりと。あげてよへるまで。もうらんと
そとれづありと。アリとよやぢりあひて。ソヤトツと
まうでかる。屏风にまく。おもてじ。おもてう情よ。今のも
よまれ。二十あとよ食と。うきひくろとくらうすのよ。やけ
みうきてそれよう。ゆくとよ。かくはよがり承るまく。
ツ風よ帆とあひと。ゆくとよ。ゆくへ承十八船へかく
ら友のきく。うひとそ。いと。これこよひりのもう。承
水をきく。うづみかうて。昆布ねふ。うづみかう。うづ
安東よ。安東よ。十八船ともよ。乾鞋の眼とぞりよ。うづ
とめきくる。うづ。うづ。もくちがく。うづ。うづ。二世を
とりひき。せうそ。れいのなと。心やの後合。うづ
えれぞ。ア石あゆうて。ごさん。うづ。うづ。うづ。

と一ふよぢく。空船もそもでう。よもせ出でた。ちがり
うれむ悉破船して。乍らぐらうぐよみて。船
おもれぬ船と、はうりぬ。是より小圓舟へ遊女よりく。
船と傾きうとて。傾船をとつてかまえまくひ。遊
く遊女よ令りよて。船ととおきくとくとくふね
や。山のいもがうきさようとりよしげは。もくへまく
丸あまよるくわのうと。よ方へのづくとおねね。
お殿のまうとうくまう。はなよ定めうとえ

一之巻終

積文庫

